

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3188410号  
(U3188410)

(45) 発行日 平成26年1月23日 (2014. 1. 23)

(24) 登録日 平成25年12月25日 (2013. 12. 25)

(51) Int.Cl.

B 6 5 B 69/00 (2006.01)

F 1

B 6 5 B 69/00

D

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願2013-5192 (U2013-5192)  
(22) 出願日 平成25年9月6日 (2013. 9. 6)(73) 実用新案権者 505339885  
樋口 信代  
神奈川県鎌倉市腰越 1 7 1 8 - 6 5  
(72) 考案者 樋口 信代  
神奈川県鎌倉市腰越 1 7 1 8 - 6 5

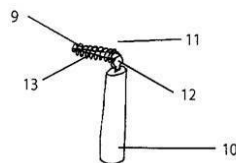
(54) 【考案の名称】紙パック容器注ぎ口オープン具

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】開け易いような加工を施して裂かなくても、パック容器の口を簡単かつ確実に開けることのできる紙パック容器注ぎ口オープン具を提供する。

【解決手段】紙パック容器の注ぎ口オープン具 1 1 は取っ手 1 0 の先がくの字に曲げられた錐 9 を有し、その錐は、安全確保のためスプリング 1 3 で被われている。紙パック容器の注ぎ口の糊付け部の境に錐の先を押し込み、手前に引っ張ることにより、注ぎ口の糊付部をはがすことができる。

【選択図】図 3



**【実用新案登録請求の範囲】****【請求項 1】**

取っ手と、この取っ手の先端に取り付けられた、先端が鋭っているくの字に曲げられた錐と、この錐の外側に被せられたスプリングと、を備え、紙バック容器の注ぎ口の糊付け部の境に錐の先を押し込み、手前に引っ張ることにより、注ぎ口の糊付け部をはがすことができるように構成されていることを特徴とする紙バック容器注ぎ口オープン具。

**【請求項 2】**

前記錐は、安全性確保のためスプリングで覆われているが、紙バック容器の注ぎ口の糊付け部の境に先を押し込むことにより、このスプリングは、錐の付け根に押しつけられて縮められることを特徴とする請求項 1 記載の紙バック容器注ぎ口オープン具。

10

**【考案の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本考案は、くの字型の錐とスプリングから構成された紙バック容器の注ぎ口を開くためのオープン具である。

**【背景技術】****【0002】**

紙バックは、老若男女を問わず、日常の食生活で使用頻度の高い容器である。しかしながら、紙バック容器は、手の力で開ける方法しかなかった。そのため特に握力の弱い高齢者や子供は紙バック容器を開けることに難儀し、開けることのできない人もいる。そこで特許文献 1 に記載したように紙バックの口に加工を施したものも開発されている。

20

**【先行技術文献】****【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】実用新案登録番号 3 1 2 1 6 5 2 号

**【考案の概要】****【考案が解決しようとする課題】****【0004】**

しかしながら、特許文献 1 に記載されたようなバック容器の口を開け易いような加工を施すのは煩雑であり、バック容器の口の確実な密封性を低下させる。したがって本考案は、開け易いような加工を施して裂かなくても、バック容器の口を簡単かつ確実に開けることのできる紙バック容器注ぎ口オープン具を提案することを課題とする。

30

**【課題を解決するための手段】****【0005】**

この問題を解決するための本案の紙バック容器注ぎ口オープン具は、取っ手の先にくの字に曲げられた錐が取り付けられており、その錐は安全確保のためのスプリングで覆われているのである。あるいは、取っ手と、この取っ手の先端に取り付けられた、先端が鋭っているくの字に曲げられた錐と、この錐の外側に被せられたスプリングと、を備え、紙バック容器注ぎ口の糊付け部の境に錐の先を押し込み、手前に引っ張ることにより、注ぎ口部の糊付け部をはがすことができるように構成されているものである。錐の外側に被せられたスプリングは、例えば錐の先を紙バック口に差し込んだ時に、錐の付け根と紙バックの口との間で圧縮されて縮む。

40

**【考案の効果】****【0006】**

紙バック容器注ぎ口オープン具を使えば、糊付けされた紙バック容器の注ぎ口を簡単に開封できるので、便利である。

**【図面の簡単な説明】****【0007】**

50

【図 1】紙パック容器の糊付け部の剥がし具を正面からみた図。

【図 2】紙パック容器の糊付け部の剥がし具を分解した図。

【図 3】本考案に係る紙パック容器注ぎ口オープン具の糊付け部の剥がし具を正面からみた図。

【図 4】本考案に係る紙パック容器注ぎ口オープン具を分解した図。

【図 5】本考案に係る紙パック容器の糊付け部の剥がし具を注ぎ口の外側の糊付け部に差し込んだ図。

【図 6】本考案に係る紙パック容器の糊付け部の剥がし具で外側の糊付け部を剥がした図。

【図 7】本考案に係る紙パック容器注ぎ口オープン具を外側の糊付けが剥がされた注ぎ口の内端の内側糊付け部分の境に差し込んだ図。 10

【図 8】本考案に係る紙パック容器注ぎ口オープン具を注ぎ口の内側糊付け部分の境に差し込んだ紙パック容器注ぎ口オープン具を引っ張って、注ぎ口の内側糊付け部を剥がし、開口させた図。

【考案を実施するための形態】

【0008】

本考案とともに、環状型の一部を切り取り、その短い方の直線部 2 に、プレート刃 3 が取り付けられ、長い方の直線部 4 は二重になっている紙パック容器の糊付け部の剥がし具 1 が用いられる。二重になった長い方の直線部 4 に、紙パック容器 5 の注ぎ口 6 とは反対側の山 7 をすべり込ませる。そして、注ぎ口 6 に短い方 2 のプレート刃 3 を差し込み、テコの要領 20 で紙パック容器の糊付け部の剥がし具 1 を引き上げる。また、紙パック 5 の糊付け部 8 は、くの字に曲げられた錐 9 が取り付けられた取っ手 10 を有する本考案の紙パック容器注ぎ口オープン具 11 を、糊付け部 8 の境に差し込み、指当て部 12 を人差し指の上の乗せて引きはがすことにより、糊付け部 8 を、容易に開けることができる。なお、錐 9 の先は、危険なのでスプリング 13 で覆われている。

【0009】

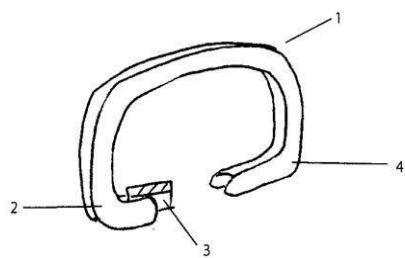
糊付け部の剥がし具 1 を引き上げると、注ぎ口 6 の外側の糊付けが剥がされる。次に注ぎ口 6 の内端で、注ぎ口 6 の内側同士を接着している内側糊付け部 8 の境に、紙パック容器注ぎ口オープン具 11 の錐 9 の先端を差し込む。紙パック容器注ぎ口オープン具 11 は、取っ手 10 の先端にくの字に曲げられた錐 9 を取り付け、側方に延びる錐 9 の部分にスプリング 13 30 をはめてかぶせたものであり、指当て部 12 に人差し指をのせて、この取っ手 10 を握り、注ぎ口 6 の内側を開口方向に引っ張る。そうすると、下方に曲がっている錐 9 に引き剥がされて、注ぎ口 6 の外側 14 が内側 15 から分離し、開口が形成されることになる。

【符号の説明】

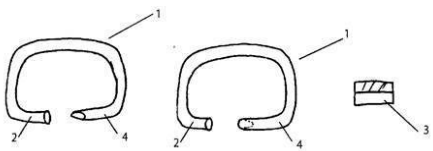
【0010】

- 1 紙パック容器の糊付け部の剥がし具
- 2 短い方の直線部
- 3 プレート刃
- 4 長い方の直線部
- 6 紙パック
- 7 紙パックの山
- 8 糊付け部
- 9 錐
- 10 取っ手
- 11 紙パック容器注ぎ口オープン具
- 12 指当て部
- 13 スプリング
- 14 外側糊付け部
- 15 内側糊付け部

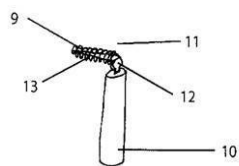
【 図 1 】



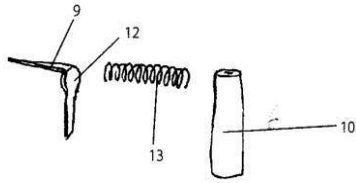
【 図 2 】



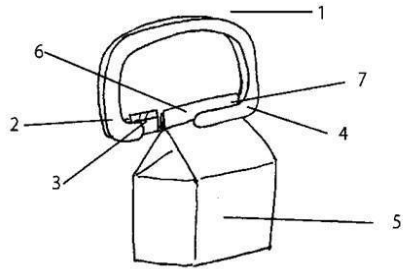
【 図 3 】



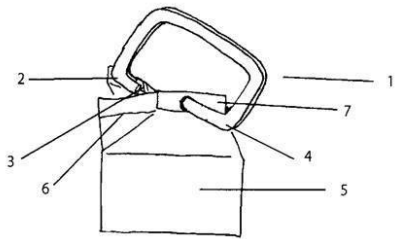
【 図 4 】



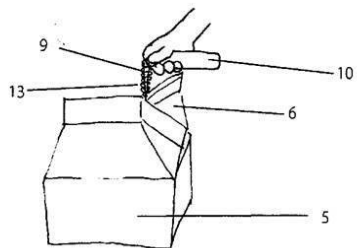
【 図 5 】



【 図 6 】



【 図 7 】



【 図 8 】

